

新中核病院建設の推進

■問合せ／企画課(☎58151111、75131111、内線1272)

11月20日、桜川市・筑西市の議会全員協議会において、両市長が新中核病院建設に向けた具体的な協議を進めることを表明し、大筋で了承されました。

新中核病院建設にあたっては、これまで建設場所の問題などで懸案となっていました。が、今後は場所の問題も含め、本質的な課題である医師確保や経営改革など持続可能な地域医療提供体制の確保について、実質的な協議を進めることとなります。

協議を進めるにあたり、桜川市・筑西市の抱える課題、当該地域を取り巻く医療の現状を整理し、現状報告、想定される今後の取組みの概要をお伝えします。

■課題および現状

・心疾患および脳血管疾患の死亡率が全国平均を大きく上回っている。

・医療資源が不足、特に緊急を要する急性心筋梗塞に対応できる病院がなく、脳卒中への対応も不十分

・医師不足などにより公立2病院(東西総合病院・筑西市民病院)が疲弊し、事実上、急性期医療が担えていない。

・軽症患者までもが圏域外へ流出

・災害時の対応や老朽施設の改修が課題となっている。

医師確保、病院経営、施設の老朽化、少子高齢化などの課題から、近い将来、桜川市における医療提供体制の確保が難しくなっています。

こういったことから、同じ課題を抱えた桜川市・筑西市の地域において、茨城県が策定した地域医療再生計画に基づく新中核病院整備の協議が進められてきました。

■今後の協議の流れ

▼基本的事項調整代表者会議(仮称)
内容／建設場所、経営形態などの基本的事項の合意

▼国への計画の期限延長要請

▼建設推進会議(仮称)

内容／基本構想、基本計画など病院の経営方針や診療内容など詳細にわたる検討を行う。

【参考】茨城県地域医療再生計画における新中核病院の概要(平成23年11月変更)

- 事業期間／平成24～25年度
- 病床数／一般病床300床程度
- 主な医療機能／三次救急医療機関。脳卒中・急性心筋梗塞の急性期に対応。臨床研修指定病院として安定した医師の確保を図る。地域医療支援病院。地域災害拠点病院としての受け入れ能力の拡大など
- 医師数／常勤医師50名以上
- 設置場所／筑西・桜川地域
- 概算事業費／約75億円
- 基金負担額／約25億円

〈用語解説〉

※三次救急医療機関／心筋梗塞、多発性外傷に対応できる高度救急救命センターなどを備えた医療機関

※地域医療支援病院／地域の病院、診療所などを後方支援するという形で医療機関の役割分担と連携を目的とした病院

※地域災害拠点病院／大規模災害時における医療確保を目的とした病院

計画終了後のイメージ

